■おわりに

COVID-19パンデミック前後の小児の主な呼吸器・消化管感染症の疫学変化について概説した。2020年に多くの感染症の報告数が減少したが、2021年はノロウイルス胃腸炎、RSウイルスが流行し、2022年は感染性胃腸炎の報告数がパンデミック前のレベルになり、2023年はインフルエンザの流行を認めた。一方で、マイコプラズマ肺炎、ロタウイルス胃腸炎の報告数は非常に低いレベルに留まっている（2023年41週時点）。

【参考文献】

1．厚生労働省．新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に係る新型インフルエンザ等感染症から５類感染症への移行について．
https://www.mhlw.go.jp/content/001091810.pdf

2．IDWR 感染症発生動向調査 週報．
https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr.html

3．IDWR 感染症発生動向調査 週報 2023年第41週（10月９日～10月15日）．
https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/idwr/IDWR2023/idwr2023-41.pdf

4．Fukuda Y, Tsugawa T, Nagaoka Y, et al. Surveillance in hospitalized children with infectious disease in Japan: Pre- and post-coronavirus disease 2019. J Infect Chemother 2021；27: 1639-1647.

5．Fukuda Y, Togashi A, Hirakawa S, et al. Changing patterns of infectious diseases among hospitalized children in Hokkaido, Japan, in the post-COVID-19 era, July 2019 to June 2022. Pediatr Infect Dis J 2023；42: 766-773.

6．Fukuda Y, Togashi A, Hirakawa S, et al. Resurgence of human metapneumovirus infection and influenza after three seasons of inactivity in the post-COVID-19 era in Hokkaido, Japan, 2022-2023. J Med Virol（in press）.

お知らせ

北海道内科医会ならびに日本臨床内科医会入会のご案内

北海道内科医会は、1989年11月の設立以来、地域医療の推進をはじめ会員の専門知識の研修、保険医療の改善・向上など各種事業に取り組んでまいりました。また、当医会と協力関係を持つ日本臨床内科医会は、臨床内科学の発展を図り、医療の向上を目的に1985年に創設された第一線内科医の団体です。自己研鑽のための生涯研修の推進、「かかりつけ医のためのWEB講座」の開催、高血圧・糖尿病・インフルエンザなどの疾患の研究、市民への公開講座を行うなど、臨床内科学へ大きく貢献しております。また、日本臨床内科医会の専門医は取得しやすく、専門医になると１日研修を経て総合診療専門医の指導医として認められます。

今後とも日本臨床内科医会と連携し、厳しい医療環境に立ち向かい、地域住民に質の高い医療の提供体制構築に向け努力をしてまいります。つきましては、北海道医師会員で内科を標榜されている先生、内科に興味をお持ちの先生におかれましては、当医会ならびに日本臨床内科医会の趣旨にご理解を賜り、ぜひともご加入くださいますようご案内申し上げます。

北海道内科医会 会長　佐久間　一郎

入会申込み・お問い合わせ先　北海道内科医会事務局
〒060-0042　札幌市中央区大通西６丁目　北海道医師会事業第一課内
TEL　011-231-7661　FAX　011-241-3090
E-mail naika-ikai@m.doui.jp
ホームページ　https://hokkaido.japha.jp/